

2017 年 9 月 7 日

通貨ニュース

カナダ:9 月金融政策会合 - 予想外に年内 2 度目の利上げを決定

カナダ銀行(中央銀行、BOC)は 9 月 6 日の金融政策会合で、政策金利の翌日物金利の誘導目標を 0.25%ポイント引き上げて 1.00%とすることを決定した。ブルームバーグ調査では 29 人中 6 人が利上げを予想していたが、大半は据え置きを見込んでいた。金融市場にとってはサプライズであり、発表直後に USDCAD は 1.24 近辺から一時 1.2150 割れまで急落し、2015 年 6 月以来の安値をつける動きがみられている。また追加利上げに関し、現時点の金利先物市場では次回 10 月 25 日会合での利上げを 40.7%、来年 1 月 17 日会合までの利上げを 74.0%織り込んでいる。

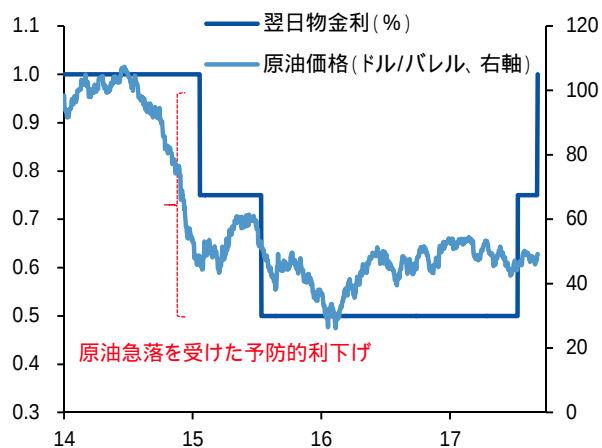
BOC は前回会合(9 月 6 日)で 2010 年 9 月以来、約 7 年ぶりの利上げに踏み切ったのに続き、2 会合連続での利上げを決定した。BOC は前回会合で需給ギャップの解消時期の見通しを「2018 年半ば」から「2017 年末」へと前倒したほか、BOC のポロズ総裁は 6 月以降、2015 年の利下げの役割が終わったことを示唆する発言を繰り返していたことから、金融政策報告書(MPR)を同時に公表する 10 月 25 日の会合において追加の利上げを実施し、2015 年以降の異例の低金利の正常化を図ると見る向きが多かった。

BOC は声明文で、「最近の経済データは予想よりも強く、カナダの成長が一段と広範かつ自律的なものになりつつあるという見解を裏付けている」と指摘。「予想を上回る経済情勢に鑑み、大規模な金融刺激策の一部解除が正当化されると判断した」としている。先行きの政策方針については、「あらかじめ決まっておらず、インフレ見通しを示す経済データや金融市場の動向が指針になる」とし、この後に「潜在的な経済力の進展と労働市場の動向が特に焦点になる」と続けている。さらに、「家計債務が高止まりしている現状を踏まえ、利上げに対する経済の感応度について注視していく」とした。

これらのガイダンスを踏まえると、年内は政策金利を据え置く公算が大きい。過去 2 会合の利上げに伴い、2014 年後半からの原油価格の急落を受けた予防的利下げ分の復元は完了しており(図表 1)、さらに利上げを続けるかどうかは今後の経済動向に左右されるだろう。BOC は利上げが高水準の債務を抱える家計部門に与える影響を懸念しているが、それを判断するにはある程度の時間が必要である。また、足許のインフレ状況は早期の利上げを必要とはしていない(図表 2)。確かに、カナダ経済は過去 1 年に亘って潜在成長率とされる +1.0 ~ 1.6%を大幅に上回る高成長が続き、需給ギャップの縮小とともにインフレが加速することが期待される。だが、BOC が指摘するように、カナダの労働市場には未だスラックが残されているとみられるほか、多くの先進国で観測されるように、労働市場の改善が賃金および物価の上昇圧力には繋がっていない。年明けに利上げを決定する前に、期待通りインフレが加速してくることを確認する必要があるだろう。

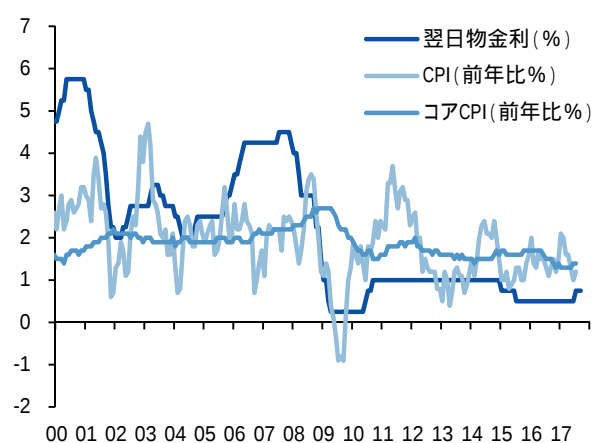
国際為替部
マーケット・エコノミスト
多田 健太
03-3242-7065
kenta.tadaide@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 原油価格と翌日物金利



出所: カナダ銀行、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: インフレ率と翌日物金利



出所: カナダ銀行、カナダ統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。